

Book Review

ペリオバカ養成講座 2 メンテナンス編 ～学びの門戸を開くための 102 の質問～

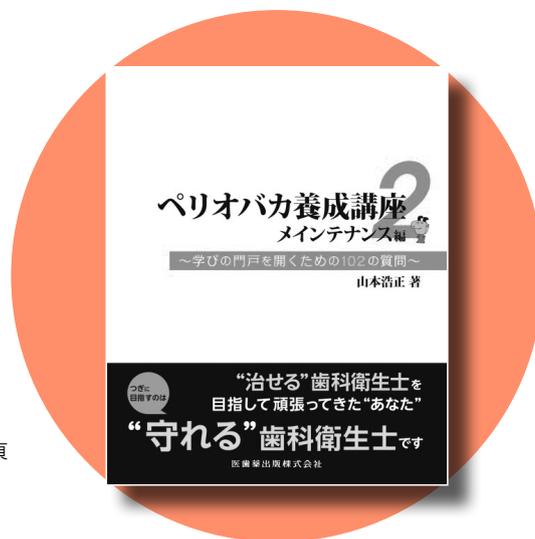
山本浩正 著



Reviewer

中居伸行 Nobuyuki Nakai
(京都府・なかい歯科)

AB判, 176頁
オールカラー
定価 5,940円
医歯薬出版刊



「メタ」に世界を俯瞰するというのは知性の重要な要素です。

著者はいつも豊富な最新文献からペリオの世界を構築し、さらに、時に形而上的とも思えるメタ視点から、それとわからぬよう簡易な言葉で読者の心に忍び込みます。こういう芸当を決め込む書き手はそうはいません。

本書は7年前に発刊された『ペリオバカ養成講座～学びの門戸を開くための102の質問』の第二弾で、前回に引き続き、著者は自分のことをバカと宣言しています。

私はいろいろなところで、エキスパートの定義を「ここからがわからないこと/わかっていないこと、と線引きできるヒト」と話していますが、そういう意味で7年後の現在もまだ“バカ”のトップランナーでありつづける著者が、ペリオの真のエキスパートであることは間違いありません（いまさら私が声高に語るまでもありませんが）。

“バカ”を表明することは単なる自

虐的ユーモアだと思っている読者は誤読しており、そこには自分はわかっていると錯覚している人たちに対して、クリティカルな警告を含んでいることを理解しなければなりません。

しかし、本書はそんなメタな話とは無縁に、ラブリーなイラストとかぎりなく優しい語り口で綴られ、「いつの時代も、学びを引っ張るのは“私はわかりませ～ん”と胸を張って言えるバカである」などと、私のような中途半端なバカを勇気づけてくれる泣ける名句も散りばめられています。

本書はNo.1「メンテナンス序章編」～No.7「気になるトピック編」まで、それぞれ臨床に役立つ要素で構成されているほか、気になる「ペリオバカ度診断成績表」つき、12本のコラムも、読み応えがあります。

さて本論に関して。

メンテナンスとは（と大上段から語る立場ではないのですが）、歯周初期治療よりさらに言語/非言語のコミュニケーション能力が求められる

フェーズです。

その際、歯科衛生士が身に付けておくべきポイントに関して、特に「メンテナンス序章編」、「コミュニケーション編」では、従来のメンテナンス指南書にはない、技術論を超えた、なかなか言語化しにくい内容が惜しげもなく披露されています。

これは、メンテナンスに限らず、つまり歯科衛生士だけではなくドクターにも、いやもしかすると、ドクターのほうがむしろ読むべきではないかという臨床の奥義と呼ぶべきキラーコンテンツが満載されています。もちろんベテラン選手は薄々わかっていることだったかもしれませんが、彼らが何十年もかかって体得した真実がこうも易々と披露されたのですから、若手が読まない手はありません。

本書を読み尽くした後、わからないことが明確に立ち上がりそれを切実に知りたくなったのであれば、それは読者が「ペリオバカ」の第一歩を歩み始めたことになるかもしれません。